

トリコフィトン・トンズランス感染症

Q：トリコフィトン・トンズランス感染の記事を読みましたが、どのような病気ですか。

A：トリコフィトン・トンズランスは白癬菌の一種で、頭部白癬の主な原因菌です。他人と接触する機会の多い格闘技選手の間で集団感染することがあります。他人にうつるので、そのような病気があることを知っておくとよいでしょう。症状が軽ければ薬店で購入できるシャンプーを使って対処できます。1人に症状があらわれたら、全員で治療を受けることが望ましいでしょう。

柔道をはじめとする格闘技選手の間では、水虫、タムシなどの皮膚真菌症に感染することがよくあります。トリコフィトン・トンズランス(Trichophyton tonsurans)は南北アメリカやヨーロッパでは頭部白癬の主な原因菌ですが、日本では最近まで分離されることはまれでした。しかし2001年頃から全国の柔道部員やレスリング部員に白癬の集団発生が見られるようになりました。この菌は体や頭部に感染しやすく、通常の水虫菌に比べ症状は目立ちにくいのですが感染力が強く、家族や友人にうつりますし、一度感染すると治りにくいので注意が必要です。特に頭に全く症状がないのに多数の菌が寄生している保菌者が危険な感染源となります。

格闘技選手は、身体が触れ合い、すり傷もできやすいため感染しやすく、柔道人口(約50万人)の数%である1~3万人が感染していると推測されています。今後、家庭内でも感染が広がることが懸念されています。

症 状

症状として体部白癬タイプと頭部白癬タイプの2種類に分けられます。

- ・体部白癬(ゼニタムシ)...発疹は柔道着で擦れる顔、首、上半身に直径1~2cmのかさかさしたピンク色の斑が単発あるいは複数できます。主に塗り薬で治療します。
- ・頭部白癬(シラクモ)...ふけやかさぶたが少しできる程度の症状の軽いものが多いのですが、まれに頭皮が盛り上がり、ウミがでて脱毛が生じる場合があります。飲み薬で治療します。

治療せずに半年ほど放置すると自然に症状がなくなりますが、菌は毛穴の中に隠れて保菌者になってしまいます。この場合は治り難く、部員間、家族間での感染源になります(無症候性キャリアー)。

この菌は人間の皮膚の角質層(アカ)、毛、爪の中でしか生きることができません。病変部を治療することが一番大切です。また1人が治療して治っても、部員や家族に感染したままの人がいるとまたすぐうつります。1人の人にこの菌が発見された場合は全員で検査・治療しない

と意味がありません。

治 療

(1) 体部白癬（タムシ）の場合

早期にきちんと治しておくことが大切です。放置すると菌が頭髮の中に入ってしまう。

まずは診察をうけてください。その場合も接触度が高いスポーツをしている場合はその旨伝えてください。

できれば受診をおすすめしますが、症状が間違いないと自分で考えられ、病院へ行く時間がない場合は市販の抗真菌剤のクリームを使用してください。診断が間違っていなければよく効きます。1日2回広めに薄くのばして1ヶ月間塗ってください。1週間くらいで症状は消失しますが、途中でやめると再発します。また使用していて、かえって元の症状より悪化する場合、外用剤の効果が遅い、再発するなどの場合は病院へ受診してください。爪は短く切り、患部を搔かないようにしてください。

(2) 頭部白癬の場合

最近ふけがふえた、頭が痒い、部分的にかさぶたがでるという人は検査が必要です。皮膚科に受診し専門医の指示に従ってください。

菌の量が少なければ抗真菌剤入りの市販のコラージュフルフルシャンプー（持田製薬、リンスは無効）を1日おきくらいの頻度で3ヶ月間使用することでよくなります。

菌の量が多い場合は内服治療（イトリゾール、ラミシール）になります。

予 防

感染予防も重要なので、練習場や練習着を常にきれいにし、練習直後に頭や体をよく洗って菌の付着を防ぐなどしてください。

【参考資料】

- (1) T.tonsurans感染症対策研究会編：柔道選手の皮膚真菌症 ブラシ検査・治療・予防のガイドライン、2003
- (2) 薬事ニュース2007年9月21日 コンタクトスポーツによる感染
- (3) 読売新聞2006年12月8日 格闘技選手に「新型水虫」